

諸宗教の対話と協力に力を注いだローマ教皇ヨハネ・パウロⅡ世聖下の提唱により1986年10月27日に「世界平和の祈りの集い」が開かれた。世界の諸宗教指導者がイタリアの聖地アッシジに集い、それぞれの宗教儀礼で、世界平和を希求する祈りを捧げられた。

第253世天台座主山田恵諦（1900～1999）もこの集いに参加し、後に日本においても世界平和のための祈りの集いを開催することを宣言した。日本のさまざまな宗教者はすでに世界平和のための様々な運動を展開していたため、恵諦座主の呼びかけに応じて共同主催者となった。

1987年8月に比叡山山頂にて第1回「比叡山宗教サミット（世界宗教者平和の祈りの集い）」が開催され、世界各国から諸宗教代表者が参集し、共に世界平和を祈願した。以来、毎年「平和の祈り」は続けられ、10年毎の節目の年には記念の大会が開かれている。

しかしながら、こうした理想とはうらはらに、世界では格差の拡大と、富の偏在が差別やテロリズムにつながり、自由と平等という民主主義の価値が危機に瀕している。独裁や、弱者や少数者、難民などを抑圧することで自らの優位性を誇示するという排他主義が市民権を得て、その力を増大しようとしている。いかなる困難や危険があろうとも、祈りと対話を通じて世界平和の実現に邁進することは宗教者の義務である。

地球という「共同の船」に乗る私たちは、我欲を超えた叡智をもって世界が直面する問題に対処しなければならない。「比叡山宗教サミット」は、世界平和の意味を定義し、全宗教が持つ使命と責務を確認することを目指している。